

## 山はこび物語（氷上町）

よくもえるいろりに、おばあちゃんとたかし君があたっています。

「おばあちゃん、はなしをしとくれなあ。」

「うん、むかしむかし、そのむかし、大きな大きな鬼〈おに〉がおったんやで。

やっこらさ、やっこらさと、大きな大きな棒〈ぼう〉で、前に犬岡〈いぬか〉山、うしろに甲賀〈こか〉山をかついで。

ずっと、ずうっとむこうから、のっそ、のっそ、よっこらさ、よっこらさと、やっと成松〈なりまつ〉までやってきよったんや。」

「それで、鬼さんはどうしたんや。」

「おもたい山をかついでここまできたんやけどなあ、成松は佐治〈さじ〉川と葛野〈かどの〉川がであつとるやろ、川は深いし、沼があるし、しる田が多いやろ。」

「鬼さんはどろんこになったやろなあ。」

「おもたい山をかついどるやろ、足がずりこんでしまうし、おなかがへるし、すっかりこまってしもて、そのまま山をおいてかえったんやて、それでかわいい山が二つならんどるんや。」

氷上町には標高〈ひょうこう〉一六九メートル甲賀山と標高一五二メートルの犬岡山とがなかよくならんでいます。

